



三池闘争の退却後、潮のよ
うな強力なウツムをいせす推進
されてきたが、そのことがあつた
大災害を引き起こしたのである。
三池町にある第一斜坑へ急ぐ私
の足は、悲しみに沈む思いがめ
遺族の心境であった。しかし大車
田の街は、九州一周旅行の行事に
わきかえつていて、各県選手がも
ついでにその切カフを残し、寒さ
むとした初冬の風、海霧をしい
て黒土をさらしてあり、菅笠を
重にも積み上げたように、わらわ
はがはびくと視野に入る。

「三池でくつなつた四百五十八
名の仲間が、百姓をしていたと
たら」流れる車窓の田圃風景に
見入りながら、私は「トそんなこ
とを考へてみるのだ。」

人命監視、保安無視、出炭第一
主義、それらの三井鉱山の政策が
かち行つたところ、私の前方を
守衛にうらと

五周年を密かに

炭労明治佐賀 関 夢 太郎

「遺族の方です」と私の姿を
一目見てもうごつてくれたので、
私は四百五十八名の遺族の一人と
して坑口の前に立った。

あの日、この坑道の三井坑道近
から、炭車爆走による発火がおこ
り、炭じん爆発を誘発してこの坑
口付近の現場はほとんど片付
けられておるとはいえ、なまなま
しきまでに、あの日を憶ふ思い
を捧げる主婦などを見ると、私は
嗚咽に口をおさえねばならぬ程
深い悲しみの激情にゆきまされ
た。

坑口付近の現場はほとんど片付
けられておるとはいえ、なまなま
しきまでに、あの日を憶ふ思い
を捧げる主婦などを見ると、私は
嗚咽に口をおさえねばならぬ程
深い悲しみの激情にゆきまされ
た。

何がねらいなのか?

三川のIE教育をあげよ

三井鉱山が発行する社内報の「三川」に、社内報、というのがあるが、その九月号に「三川のIE教育」(副題「目標管理をめぐって」)という記事が載っている。端的に言えば「三川」に「流れる車窓の田圃風景」に見入りながら、私は「トそんなことを考へてみるのだ。」

人命監視、保安無視、出炭第一主義、それらの三井鉱山の政策が

危険が何だと

倉岡敏長

「今年七月実施した三井鉱山におけるIE教育は、対象者一主簿係員全員、場所一三井鉱山三川坑道、一回を二日間として三回実施した。内容はIE総論のほかWSに関する講義や実習、改善や工程分析、創造性の開発、改善や工程など、教育の冒頭倉岡敏長は挨拶をした。

「IEは知識のみの吸収に終りてはならぬ。実行に移すことが何より大事である。そして今日より明日へ前向きな努力を積み重ね、計画を実行し、結果を反省し、さらによいものをもとめて改善をすすめてゆけ。これが真の管理者の姿である。」

燃やせ利益追及への執念

敏長の挨拶にうかがわれるように、IEは知識でなく、行動だ。「IEの思想は利益の追求、生産性の向上、そして原価低減へのあくなき執念である。人間に肉体と精神があること、IEにも心と体がある。

心一利益追求への執念。
現状に満足せぬ前向きな考え方。
体一問題解決に役立つ手法
知識でなく行動
そして

社内時報から

「目標管理を設定し、その目標に向かって進んでいく」というのが、管理者の気構えを示すもので、言うなれば動機づけに重点を置くものである。

山に登ろうとする場合、まず「あの山を何処でも征服する」という気遣いがあるが、

「私たちの賃金は年々七十八%は上がつて行く。その財源はどこからくるか。それはいままでのまゝ、企業が自ら稼ぎ出す以外方法がない。そのためには生産性を高め、原価を下げていく必要がある。」

「私たちが賃金を年々七十八%は上がつて行く。その財源はどこからくるか。それはいままでのまゝ、企業が自ら稼ぎ出す以外方法がない。そのためには生産性を高め、原価を下げていく必要がある。」

「私たちが賃金を年々七十八%は上がつて行く。その財源はどこからくるか。それはいままでのまゝ、企業が自ら稼ぎ出す以外方法がない。そのためには生産性を高め、原価を下げていく必要がある。」

「私たちが賃金を年々七十八%は上がつて行く。その財源はどこからくるか。それはいままでのまゝ、企業が自ら稼ぎ出す以外方法がない。そのためには生産性を高め、原価を下げていく必要がある。」



「いやア、何でもないんです。私知りません」と逃げ出す看護婦さん。ほほえましい、みいけの闘いの一場面。

批判や意見もでた

連帯強めた合唱詩劇田川公演

かねて田川地区反戦青年委員会の手で計画されてきた、合唱詩劇「みいけの闘い」の田川公演は二十八日終ったが、こんどの公演にはかなりの批判も寄せられ、考えさせられる点が多い。

「みなほそ夜のうらに貸切バスで大車田に帰ったが、三人の参加者があとに居残り、集まった二十人ほどの若き青年、女性と夜のふけるのも惜しみながらの交流の中で、「表現すべき言葉があまりない」との意見が寄せられた。次はどのような批判や感想が寄せられるか。

「この合唱詩劇と、田川の自分たちの間には大きなズレがある。民間産業労務者と官公労中心に組織された田川の労務者との差も知れないが、田川なら田川の問題と組んで舞台をつくることも考えてほしい。」

指揮者が「もう一曲うたお何より好き。」

科学的分析を行なう
金をかけぬ
人を生かす
「IE教育の方針は、次の三本の柱を中心に行なわれる。
①企業の敵しさを認識させ、一層のやる気を起こさせる。
②仕事を疑問をもち、問題点を発見、自分の仕事は自分で改善する。その心構えと手法を伝える。」

部下を如何にして動機付けて使うか。リーダーシップのあり方について論議する。
「特に人間関係で、部下に誠意をもつて接する。」「生産の力を高めるには結局は人である」との認識のもと、USに於いて部下にやる気を起こさせるかという、係員としての謙虚な反省と自信について、頭のさがる思いがする。
「やろうとする目標管理の心」と、よりよい仕事のやり方のIEの体が一歩となったとき、一層の良し成果が上がるものと信じている。(以下略しました)

「いやア、何でもないんです。私知りません」と逃げ出す看護婦さん。ほほえましい、みいけの闘いの一場面。